

日本語学会第 160 回大会 プログラム

会 長 田窪 行則
大会運営委員長 伊藤 さとみ

期 日：2020 年 6 月 20 日（土）・21 日（日）（当初の予定）

会 場：予稿集のウェブ公開

E-mail：lsj@nacos.com（言語学会事務支局）

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、早稲田大学での開催は中止となりました。

※公開シンポジウムは中止、口頭発表とポスター発表は、予稿集（PDF 版）の公開を以て、今大会での研究発表実績として認定します。また、発表者の任意参加ですが、2020 年 7 月 1 日(水)～7 日(火)の間、YouTube にて、研究発表の音声または動画を配信します。

※第 160 回大会に限り、大会参加費は無料です。

—— 研究発表 ——

■口頭発表

A 会場	B 会場
司会：[1-3] 児玉 茂昭, [4-6] 松浦 年男	司会：[1-2] 玉岡 賀津雄, [4-6] 大島 デイヴィッド 義和
[A-1] 塚越 柚季 初期サンスクリットにおける印欧祖語の音節核鼻音*ŋ と喉音 *H の連続の反映	[B-1] 峰見 一輝, 広瀬 友紀, 伊藤 たかね 日本語 wh 疑問文における文法性の錯覚と記憶処理—文 読解中の視線計測実験—
[A-2] 大山 祐亮 共通スラヴ語における印欧祖語*-os の反映形：屈折体 系の変化に着目した説明	[B-2] 有賀 照道, 津村 早紀, 曹 瑞, 福田 建, 広瀬 友紀 コントロール構造の文処理をコントロールする要因につ いて
[A-3] 荒川 慎太郎 西夏文字の、ある「5画」部首の再分類	
[A-4] 山本 恭裕 アイク語（パプア・ニューギニア）の音素体系の記述	[B-4] 佐藤 らな 名詞が程度性を持つとき：N すぎる構文を通して
[A-5] 近藤 森音, 伊藤 たかね 複合形容詞への強調促音挿入における音韻効果と形態効 果—二肢強制選択課題による検討—	[B-5] Yuki A. SEO A movement account of a Japanese verbal suffix <i>-sugi</i>
[A-6] 石橋 頌仁, 竹安 大 長音と促音の知覚における隣接要素の持続時間及び音韻 長の影響：発話速度の観点から	[B-6] Zhonglin SANG On the discourse functions of the [yào shì + P + ne?] structures in Chinese -A functionalist perspective-

<p style="text-align: center;">C 会場</p> <p>司会：[1-3] 星 英仁, [4-6] 成田 広樹</p>	<p style="text-align: center;">D 会場</p> <p>司会：[1-3] 酒井 弘, [4-6] 小磯 花絵</p>
<p>[C-1] 田村 惇 “wh-mo”の統語・音韻的認可</p>	<p>[D-1] 葛西 有代, 木山 幸子, 新国 佳祐, 時本 真吾, 汪 敏, 宋 歌 壮年期日本語母語話者のかき混ぜ文聴覚理解における処理負荷—事象関連電位を指標として—</p>
<p>[C-2] 北田 伸一 空範疇の探索可能性：探索する空範疇と探索される空範疇</p>	<p>[D-2] 汪 敏, 時本 真吾, 宋 歌, 宋 凌鋒, 上埜 高志, 小泉 政利, 木山 幸子 日本語の間接的断りにおける共話的中途終了発話の理解：事象関連電位による母語話者と非母語話者の検討</p>
<p>[C-3] Atsushi OHO (Non-)Restrictiveness of numerals and word order</p>	<p>[D-3] 矢野 雅貴 日本語のかき混ぜ文における filler-gap 依存関係の処理—持続的な脳活動は何を反映しているのか—</p>
<p>[C-4] Koji SHIMAMURA Why Scrambling and Argument Ellipsis?: Two Asymmetries between Japanese and English</p>	<p>[D-4] 河端 梓, 星 英仁 失語症者における指示代名詞の理解</p>
<p>[C-5] Kaori MIURA, Tomohiro FUJII A Phase-based Approach to the High and Low Behaviors of Adverbs in Japanese</p>	<p>[D-5] 津村 早紀, 新井 学, 馬塚 れい子 子どもの言語理解能力の発達と抑制機能の関係性</p>
<p>[C-6] 作元 裕也 フェイズの決定要因について</p>	<p>[D-6] 今村 怜 日本語における分裂文の談話機能について</p>

<p style="text-align: center;">E 会場</p> <p>司会：[1-3] 金 廷珉, [4-6] 江畑 冬生</p>	<p style="text-align: center;">F 会場</p> <p>司会：[1-3] 河崎 靖, [4-6] 林 範彦</p>
<p>[E-1] 鄭 宇鎮, 田中 太一 韓国語の目的語保持型受身—身体とはどのようなものか—</p>	<p>[F-1] 伊藤 克将 ドイツ語の虚辞 es の統語論：Phase cancellation による分析</p>
<p>[E-2] 高橋 康德 漢越語の形態統語的特徴：特殊な文法的特徴は借用されるのか？</p>	<p>[F-2] 坂本 祐太, 戸川 琴貴 ドイツ語における3人称中性代名詞 es に関する研究：抽出の可能性の観点から</p>
<p>[E-3] 張 暎洙 偏重トリリンガルの言語制御—言語切り替え課題における言語手がかりの時間差呈示を通じて</p>	<p>[F-3] Shinya OKANO On the semantic contribution of the German discourse particle <i>wohl</i> embedded under attitudes</p>
<p>[E-4] 熊切 拓 アラビア語チュニス方言の「情報的に余剰な与格」</p>	<p>[F-4] 浅野 千咲 ウェールズ語の非人称文と非人称の類型論的考察</p>
<p>[E-5] 山部 順治 オリア語における、類別詞付き名詞句に関わる格制約</p>	<p>[F-5] 宮岸 哲也 ゾゾ語の非意図的授与動詞構文と類型論的分析</p>
	<p>[F-6] 鈴木 唯 トルコ語における数量を表す重複構文</p>

G 会場 司会：[1-3] 柴崎 礼士郎, [4-6] 品川 大輔	H 会場 司会：[1-3] 青井 隼人, [4-6] 下地 理則
[G-1] 西内 沙恵 現代日本語形容詞の多義区分に対する言語学的テストの有効性－語彙・文法・論理テストから－	[H-1] 麻生 玲子, 中澤 光平 南琉球八重山語波照間方言における母音長の音韻論的解釈
[G-2] 新山 聖也 統語的に形成される述語名詞について	[H-2] 中澤 光平 南琉球与那国方言における動詞のアクセント交替の共時的・通時的分析
[G-3] 石川 和佳 英語における道具主語文の同定機能－日英対照の観点から－	[H-3] セリック・ケナン 南琉球宮古語多良間仲筋方言における「複合アクセント法則」の再検討
[G-4] 古閑 恭子 アカン語における自然発生的状態変化を表す動詞の構文交替	[H-4] 王 丹凝 南琉球宮古語新城方言における再帰代名詞 duu と nara の使い分け
[G-5] パトリシオ・パレラ・アルミロン バビメント語の進行表現における TAM 標識 ta の機能	[H-5] 金城 國夫 沖縄語金武方言における格助詞ガ・ヌの分布
[G-6] 佐近 優太 インドネシア語における接頭辞 ter-と共起する接尾辞-kan について	[H-6] 小川 芳樹, 新国 佳祐, 和田 裕一 「名詞+(が+)(XP+)(で)ある」型複雑述部における主格助詞の随意性について

■ワークショップはありません。

■ポスター発表

[P-1] 落合 守和 裁判档案から見る清代口語の諸相－南と北－
[P-2] 岩橋 一樹 シネクドキにおける意味の弾性と解釈プロセスとの関わりをめぐって
[P-3] 大久保 弥 追隨的疑問における伴立: 「それも」の談話構造的分析
[P-4] 中村 真子, 牧 秀樹 日本・中国・韓国・米国の母国語・外国語教育における「目的語」の扱い方についての比較研究
[P-5] 福田 建 接続助詞による統語構造の予測
[P-6] 原 明海 サラール語の疑問標識 mi に関する考察

お知らせ

- ◆大会参加費と予稿集
第160回大会に限り、大会参加費は無料です。予稿集は6月中旬より学会ホームページから電子版予稿集（PDFファイル）がダウンロードできるようになりますので、ダウンロード下さい。紙媒体での予稿集頒布は行っておりませんのでご注意下さい。
- ◆出張依頼状
ウェブ開催のため、出張依頼状は発行いたしておりません。兼業などの所属機関長宛の届けがご入用の方は、返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上、6月1日（月）（必着）までに学会事務支局までお申し込み下さい。
- ◆会員懇親会
第160回大会では、開催いたしません。
- ◆保育室、手話通訳、書籍展示、クローク、資料展示コーナー
第160回大会では、いずれも設置いたしません。
- ◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー
大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは郵送での注文を受け付けております。購入をご希望の方は、在庫状況を学会ホームページでご確認の上、学会事務支局までお申し込み下さい。

事務局からのお知らせ

日本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトでご確認ください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



次回大会予告（2020年秋季大会：第161回大会）

場 所：東北学院大学土樋キャンパス

（〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1）

日 程：2020年11月21日（土）・22日（日）

公開シンポジウム、口頭発表、ワークショップ、ポスター発表

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

・発表応募締め切り 2020年8月20日（金）（必着）

・採否通知 2020年9月中旬

* 宿泊施設の混雑が予想されます。宿泊を必要とされる方は早めの予約をお勧めします。

問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com